

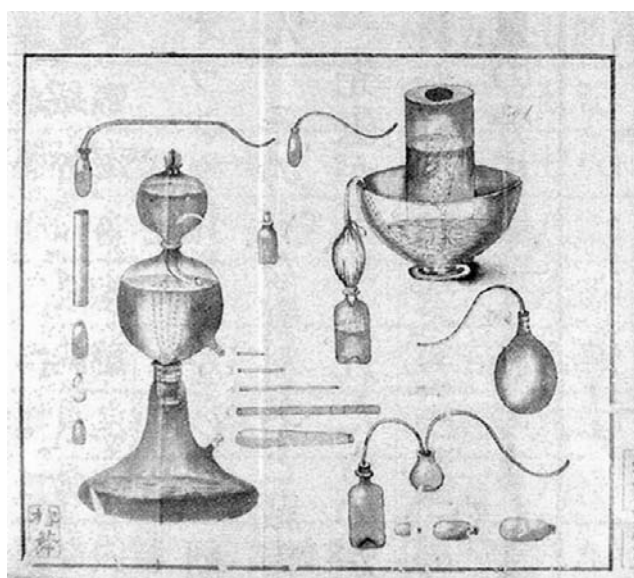
未来に功績伝える

化学の発展がさまざまな技術・製品の質を向上させ、豊かな生活を支えてきた。2005年、日本化学会は化学の歴史を伝える遺産を守る化学遺産認定委員会を設置した。同委員会は資料の調査・収集・保管、化学の実績を後世に残すための映像・冊子の作成、化学・化学技術史の普及を主な活動としてきた。10年、世界に誇るわが国の化学関連の文化遺産を認定し、それらの情報を社会に発信する「化学遺産認定事業」を開始。第1回化学遺産に6件、第2回には4件が認定された。貴重な歴史的資料を化学遺産に認定し、未来にわが国の化学の功績を伝えていく。(日本化学会協力)



第001号

杏雨書屋蔵 宇田川榕菴 化学関連資料



化学用語を創作
幕末の蘭学者である宇田川榕菴は蘭書から西洋薬物学を研究し、化学を理解した。自らの見識を織り込んだ化学入門書「舎密開宗(せいみかいそう)」を刊行。日本の化学の創始者といえる。
化学の概念を伝えるだけでなく、日本語の化学用語を創作した。例えば、酸素、水素などの元素名、また、尼結爾、亜律密鳥母は現在、片仮名表記でニッケル、アルミニウムとして使用されている。こうした宇田川の造語は今もなお、化学の基礎として生き続けている。ここからわが国の化学は始まる。
(武田科学振興財団 杏雨書屋)

第003号

具留多味酸 試料

うまみ成分商品化
わが国の物理化学草創期に活躍した池田菊苗は甘・酸・塩・苦以外に感じる「第五の基本味」を探索する。湯豆腐のだし昆布を対象に研究を開始し、昆布のうまみ成分としてグルタミン酸の抽出に成功。
電気解離によるイオンの生成は当時の科学の最先端の概念で、物理学者ならではの発見。調味料として工業的製法を確立し、「味の素」の名称で商品化された。
認定化学遺産は池田が最初に昆布から抽出した「具留多味酸」試料である。(味の素「食とくらし」の小さな博物館)



第005号

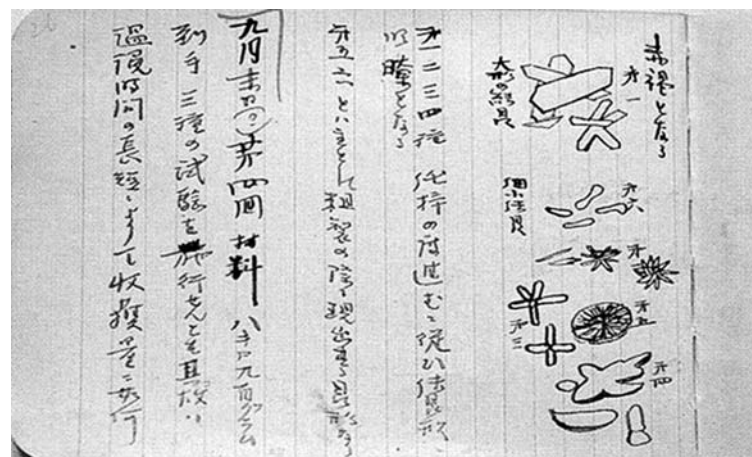
ビスコース法レーヨン工業の発祥を示す資料



人絹糸と紡糸機
フランスのシャルドンネがレーヨンを開発し、1892年には日本にも紹介された。1912年、秦逸三はビスコース法レーヨンの研究を始めた。
当時の大商社である鈴木商店の金子直吉がレーヨンの工業化に着手。レーヨンは人絹糸と紡糸機
事業を独立させ、帝国人造絹糸(現帝人)を設立した。日本のレーヨン工業は世界トップクラスの規模となった。秦の研究遺留品と人絹糸、紡糸機木製模型はビスコース法レーヨンの発祥。
(研究遺留品と人絹糸は山形大学、紡糸機木製模型は帝国人造絹糸工場)

第002号

上中啓三 アドレナリン実験ノート



アドレナリン抽出
1900年、米国の高峰研究所で高峰譲吉と上中啓三はアドレナリンを発見し、結晶化に成功した。これは世界で初めて単離されたホルモンである。
この実験ノートは生前には公開されなかった。1966年、上中の息子が複製本を作成し、アドレナリンの抽出実験は上中が中心に行ったことが分かった。
縦約10センチ×横15センチの実験ノートは片面だけの記述で縦書き。1900年7月20日から11月15日までの研究成果がつけられている。
(上中啓三の菩提寺である兵庫県西宮市名塩の教行寺)

第004号

ルブラン法炭酸ソーダ製造装置塩酸吸収塔



無機化学製品の生産
1889年、日産化学工業の源流企業の一つである日本舎密製造会社が創立された。硫酸ソーダといった幅広い無機化学製品を生産してきた。
認定化学遺産はルブラン法炭酸ソーダ製造装置塩酸吸収塔跡。食塩と硫酸から硫酸ナトリウムを製造する工程で副生する塩化水素ガスの吸収塔があった。
現在、創業時に活躍した石造りの製造装置の一部が100年以上たっても崩れず残っている。広さ1111×10.5メートル、高さは約10メートル(日産化学工業小野田工場)

化学で彩りと快適を提案する。

私たちDIC株式会社は、化学を通じて地球環境の保護や安全・安心な社会作りに貢献します。化学技術のイノベーションを常に追求し、生活に彩りを添え、快適な毎日を実現する新たな価値創造にチャレンジします。

DIC株式会社

ディー・アイ・シー



Color & Comfort by Chemistry

http://www.dic-global.com/

〒103-8233 東京都中央区日本橋3丁目7番20号

No. 2011. 8. 24 (水)

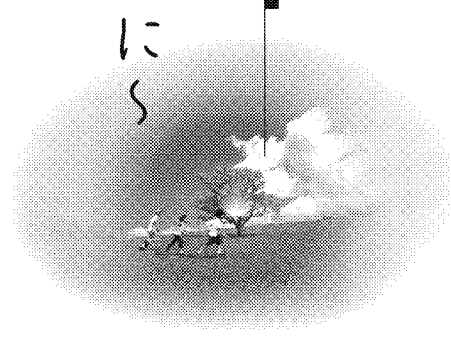
わたくしたち日本農薬は宣言します。

これまで80年以上取り組んできた農薬事業において、常に向上心を忘れずに、最先端の化学を活かした安全で高品質な新製品の創出により、世界の食と環境に貢献すること。

さらにその創薬技術を応用することで医薬・動物薬など、多様な分野での技術革新に努め、健康で豊かな生活に貢献すること。



く生命と緑の未来のために



—— 当社は世界化学年を応援します ——



日本農薬株式会社

〒103-8236 東京都中央区日本橋1-2-5 TEL:03-3274-3374 FAX:03-3281-5462 URL: http://www.nichino.co.jp/